

令和6年度大学の世界展開力強化事業プログラム委員会（第4回）議事概要

1. 日 時 令和7年3月13日（木）14:00～16:00

2. 開催方法 Web 会議

3. 出席者 委員 浅田委員、飯吉委員、池田委員、今村委員、牛木委員、小川委員、熊谷委員、黒田委員、國領委員、杉村委員、但田委員、林委員、日比谷委員、宮本委員、渡邊委員

文部科学省 佐藤 高等教育局参事官（国際担当）

庄司 高等教育局参事官（国際担当）補佐、

石谷 高等教育局参事官（国際担当）付専門職

事務局 水本 独立行政法人日本学術振興会理事、

小谷 独立行政法人日本学術振興会理事、

高見沢 人材育成事業部長、佐々木 人材育成事業部参事、

安藤 大学連携課長、豊島 同課長代理 ほか

4. 議題及び概要

（1）令和7年度新規公募等について

文部科学省から、令和7年度新規事業の公募について資料1-1及び資料1-2、事務局から、審査方法等について資料1-3～資料1-6に基づき説明があった。主な意見は以下のとおり。

- ・計画調書において、対象国を選定した理由について、大学にどこまで記載させる必要があるのか。
- ・アフリカは途上国のため、実情アウトプットが難しい案件かと思う。実際にアフリカへ行った学生からは、円安の影響でとても苦労しているという話も聞くため、できるだけ予算は潤沢にしてほしい。
- ・国益を考えた戦略的視点から見て、対象国はインドだけではなく南アジアでもいいのではないか。アフリカの大学とインドの大学を合わせて申請しても問題ないのか。
- ・2点。奨学金の問題もあると思うが、本プログラムへの参加の道をそれぞれの大学に正規生として在籍している留学生に対しても開いていくべきだと考える。また、卒業前にプログラムが終了するケースもあるので、申請時点で必須単位の124単位のうち何単位を取得と記載させることは難しい。積み上げで取得可能な単位数であれば記載させることはできるのではないか。
- ・今回の公募における、大学院と学部との繋がりについての考えを伺いたい。
- ・インドとアフリカからのインバウンドの留学生の人数や分野、アフリカで日本語を学んでいる学生の実績があれば共有願いたい。また、人材育成・確保が大きな主眼だとすると、人材確保という観点では、アフリカのハードルは高い。人材確保について、インドとアフ

リカ諸国は分けて考えたほうがいいのか、もしくは目指している部分は異なるのか、その考えを伺いたい。

- ・資料 1-2 P.19 の【学修成果の調査・測定方法の共通化に向けた取組】について、事業開始後に選定校の間で共通の枠組みを作り、その枠組みに則って評価するという意味なのか。もしくは、今後標準化をしていくという意味なのか。大学によって取り組む相手も異なるため、共通化することについて、補足にて説明願いたい。
- ・将来的には対象地域を南アジアとすることを、今後も検討いただきたい。また、インドは理系に集中する傾向にあるため、留学生を取り込むための一つのプログラムを検討する場合には、広い分野で日本の高等教育のあり方をプロモーションしていくことが必要になってくるため、分野にも配慮いただきつつ選定いただきたい。
- ・可能であれば面接審査については、以前のように大学からのプレゼンテーションのあと、質疑応答の時間を確保することも検討いただきたい。
- ・面接審査を対面に戻すことは難しいかもしれないが、以前のように大学からのプレゼンテーションのあと、質疑応答の時間を確保することについて賛同する。
- ・面接審査において、対面で実施することのメリットやデメリット、大学に提出してもらう事前説明資料のメリットやデメリットがそれぞれある。そのため説明は事前説明資料で確認することとするが、質疑応答が始まる前に冒頭で 2、3 分程度、大学からの説明時間を設けてほしい。
- ・面接審査において、ビデオ説明だけでは分かりづらい部分もあるため、大学の説明時間を設けることに賛同する。

（２）令和 7 年度中間評価について

事務局から、中間評価の評価方法等について資料 2-1 ～ 2-6 に基づき説明があり、原案どおり承認された。

（３）令和 7 年度事後評価について

事務局から、事後評価の評価方法等について資料 3-1 ～ 3-6 に基づき説明があり、原案どおり承認された。

（４）海外相手大学の追加について

文部科学省から、海外相手大学の追加について資料 4 に基づき報告があった。

なお、議題（５）以降については「「大学の世界展開力強化事業プログラム委員会」の審議内容等の取扱いについて」１．（１）①（審査・評価に関する調査審議など公平・公正な審査に影響を及ぼすことが懸念される場合）に該当することから、内容は非公開とする。